

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催国として、
日本は政府、地方自治体、スポーツ関連団体、大学、民間企業、NGO/NPO等の力を結集し、
「スポーツの力」を世界の人々に届けていきます。
全ての人々がスポーツの力を感じ、体現する機会、環境を創る。
そしてスポーツのインテグリティを守り、健全なスポーツの普及に貢献する。
2020年へ。そしてその先へ。ひとつひとつの積み重ねが、
世界を変える大きな一歩になる。
スポーツの力でよりよい未来を創ります。

NEWSLETTER Vol.9

www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp

SPORT FOR TOMORROW



特集

SFTC会員カンファレンス2019開催報告

P.2

News

SFTプログラム 100カ国、1000万人の目標達成のご報告

P.7

Information

SFTC事務局からのお知らせ

P.8



2019 開催報告

東京 2020オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム(以下: SFTC) 運営委員会より前年度の振り返りと今後に向けた活動方針を会員の皆さまにお伝えし、意見交換・情報交換をさせていただく場として、2019年12月9日(月)に東京・青山のTEPIAホールにて「SFTC 会員カンファレンス 2019」を開催しました。

カンファレンスには、会員団体から合計 55 団体、131 名の参加がありました。

今回、第 1 部では「第 5 回 SFTC 全体会議」としまして、2018 年度・2019 年度のスポーツ・フォー・トゥモロー(以下: SFT) 事業の総括と今後の方向性をお伝えし、併せて、スポーツ庁長官感謝状の授与式を行いました。

第 2 部では、「SFT が創造した 2020 レガシーとは？」をテーマに SFTC 関係団体の方に講演していただきました。

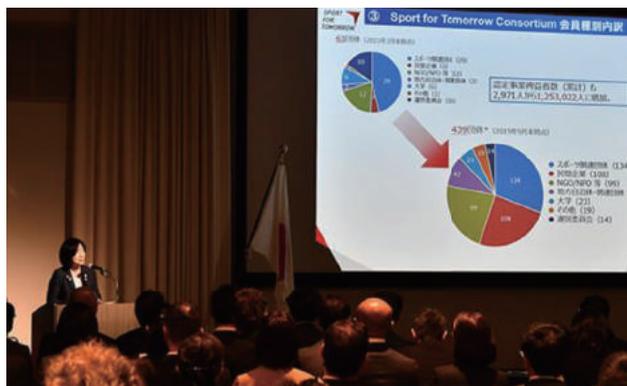
会場は満席で熱気が感じられました。また、カンファレンス終了後に開催された懇親会では参加者同士で名刺交換をするなど積極的な交流が見られ、目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた結束が高まりました。

第 1 部：第 5 回 SFTC 全体会議

冒頭の挨拶では、スポーツ庁・鈴木大地長官にご登壇いただき、「この度、ついにスポーツの喜びを 100 ヶ国以上・1000 万人以上に届ける

という目標を達成いたしました。2019 年 9 月末時点の集計で、裨益者数が 202 の国と地域、約 10,020,000 人となりました。9 月末時点の





集計ですので、今はより増えていることでしょう」と目標達成の喜びを語っていただきました。

また、「いよいよ東京オリンピック・パラリンピックイヤーを迎え、世界中の注目が集まる今だからこそ、SFTを通じてスポーツの力を日本から世界に発信する絶好の機会になります。これまでに培ったネットワークをさらに活用し、2020年、そして、オリンピック・パラリンピック開催以降も人とスポーツで日本と世界をつなぐムーブメントへ発展させていきたい」とのお言葉を頂戴いたしました。

続いて、2018・2019年度総括とSFTCの成果についてスポーツ庁藤江陽子審議官より「SFTC事業の素晴らしい点は、コンソーシアムを作っているという点です。2019年9月末の集計でコンソーシアム加入団体は439団体、

認定事業は全体の12%を占め、裨益者数120万人を創出いたしました。スポーツを主体としている団体だけではなく国際交流や福祉を目的としているなど、幅広い分野の団体が加盟していることで、交流会を通じての情報交換やSNSを通じてマッチングを支援できたのではないかと考えております」とお話しいただきました。

また、2019年で特に力を入れた事業として、2020年につながる大きなスポーツイベントであったラグビーワールドカップ2019日本大会を挙げておられました。スポーツ庁を始め各団体が、ラグビーを通じた国際交流にSFTを活用した具体例をお話しいただき、ことばや文化の異なる子どもたちの交流などを通じ、スポーツがいかに社会を変える力を持っているかについてお話し下さいました。



■ スポーツ庁長官感謝状 授与式

スポーツ庁長官感謝状の授与は、顕著な SFT 認定事業を実施した会員団体の方に行うものです。2018 年度および 2019 年度上半期中に認定事業を実施した運営委員会、政府関係機関を除く会員団体が対象となります。

クリーンでフェアな世界

浦和レッドダイヤモンド株式会社

浦和レッズ ハートフルサッカー in アジア

サッカーを通して体を動かすことの楽しさを体感してもらいながら、“ハートフル”の基本理念であるフェアプレイの精神を伝える活動を継続して行っています。サッカーを通して、豊かな人生につながる“こころ”についての講話やアジアにおける継続的なサッカー教室の実施が評価され受賞にいたしました。



浦和レッズハートフルクラブキャプテン 落合弘様のコメント

「感謝状、本当に嬉しいです。ありがとうございます。ハートフルサッカーの活動で会う埼玉の子どもたちに、幸せの国であるブータンに行った時の話をよくします。ブータンは笑いが溢れていました。我々がやろうとしていることの原点があるのかなという気がしました。子どもたちに必ず話すことは『スポーツっていいぞ。サッカーっていいぞ。でも、そのためには何が何でも一生懸命やることだ。人間なんだから頭で一生懸命考えようぜ』ということです。これからますます頑張らないといけないなと思っております。本当に今日はありがとうございました。」

持続可能で逆境に強い世界

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

2018 年ウンピラム難民キャンプ サッカーフェスティバル

2018 年 6 月 20 日「世界難民の日」に、難民キャンプでサッカー教室を開催しました。難民の子どもたちに対し自立を支援し、生活向上の取り組みを励ますとともに、個々の成長する精神を育む活動と民族の違いを取り扱う効果を評価され受賞にいたしました。



公益社団法人シャンティ国際ボランティア会会長 若林恭英様のコメント

「栄えある賞をいただきありがとうございます。ウンピラム難民キャンプはミャンマーの軍事政権に追われ、タイ領内に逃げ込んだ最大 15 万人の難民の人達が 2000 キロの国境伝いに結成した 9 つの難民キャンプの南に位置しています。約 30 年間、主に数千人のカレン族の人達が難民キャンプ生活をしています。私共は、約 40 年前から教育文化支援をメインとし、アジアの教育機会に恵まれない子どもたちに機会を広げる活動をしております。今回は 2018 年のサッカー交流事業が認められました。教育支援事業の一環として行っている難民キャンプでの活動は、スポーツの力を肌で感じる事ができます。光栄な場に立たせていただいた喜びを多くの支援者仲間と共に分かち合い、これからも多くの子どもたちに希望を届けていきます。我々の活動をピックアップしていただいたことを感謝申し上げます。本日はありがとうございました。」

認定事業において、「クリーンでフェアな世界」、「持続可能で逆境に強い世界」、「多様性を尊重する世界」の実現や、「最も多く裨益者の創出」に貢献した4団体が感謝状を受賞いたしました。

多様性を尊重する世界

公益財団法人ジョイセフ

ザンビアにおける思春期の女性を対象にしたスポーツを通じたエンパワメントプロジェクト

アフリカのザンビアにおいて、思春期の女性を対象に、スポーツを通して健康作りの重要性や性感染症予防などの啓発活動を推進し、子宮頸がんなど女性が直面する病気や問題を学び、健康で活躍できる未来を作るワークショップを開催しています。スポーツをきっかけとしたヘルスポモーションとジェンダー平等の重要性の普及、また若い女性たちをトレーナーとして育成するなど、次世代を担う若者への普及効果が評価され受賞にいたりしました。



公益社団法人 ジョイセフ事務局長 勝部まゆみ様のコメント

「スポーツ庁長官からこのような賞をいただき心より感謝しております。創業以来50年間、世界の女性の健康と命を守る活動をして参りました。現在、世界では1日約800人の女性が妊娠・出産が原因で命を落としています。ザンビアでは、こうした女性たちの命を守りたいと、若い女性を対象に、スポーツを通じた活動を実施しました。スポーツを組み合わせ健康教育を行い、自分の身体に大切なことや健康を守る知識を楽しみながら学ぶと同時に、自己効力感や自己肯定感を高め、リーダーシップを養うことができます。プロスポーツ選手から技術指導をいただく機会も増え、スポーツがいかに人々の心を育てていくかということを感じました。これからもこの経験を元にスポーツを通じた活動を推進していきます。本日は本当にありがとうございました」

最大裨益者の創出

ミズノ株式会社

対ベトナム社会主義共和国 初等義務教育ミズノヘキサスロン 運動プログラム導入普及促進事業

独自に開発した運動プログラム・ミズノヘキサスロンをベトナム全土の小学校に導入し、現地の初等義務教育における授業の課題解決に貢献、運動の楽しさと喜びを提供することを事業の目的としています。創出した裨益者数、27万3848人が対象期間中の最大裨益者数であることを評価され受賞にいたりしました。



ミズノ株式会社代表取締役社長 水野明人様のコメント

「このような素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございます。創業以来、スポーツを通じて皆様に明るく健康な生活をお届けしたいと事業を続けておりました。この度は、ベトナムの子どもたちに運動プログラムを提供することによって、運動能力をより高め、将来的には素晴らしい選手を生み出す可能性があるということで、プログラムを提供して参りました。幼い頃から運動をしていると運動が好きになり、将来的には生活の軸として、スポーツライフを楽しんでいただくきっかけの1つになれば幸いです。本当にありがとうございました」。

第2部：講演 SFT が創造したレガシーとは？

「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会を終えて」

公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 元事務総長特別補佐 徳増浩司様

大きな成功を収めたラグビーワールドカップ 2019 を振り返り「日本文化と海外文化が融合することによる新たなスポーツ文化を生み出した」と語る徳増元事務総長特別補佐は、SFT が創造したレガシーとして“国際交流の招致”を挙げられました。

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会につながる大きな自信を得たこととして、わが国の組織運営能力の高さに加え、“日本人のおもてなしの精神”についてもお話し下さいました。例えば、日本代表と南アフリカの準々決勝対戦前、日本人サポーターが南アフリカの国歌を練習していたことです。日本人のおもてなしの気持ちは、海外の選手たちにも伝わり、試合後スタジアムにおじぎをするという行動になって表れました。

招致活動を通して「日本という国が世界から一体どのように見られているのかを知ることが大事なポイント」だと改めて気づき、スポーツに関わるものの責任として、2020 年を次世代へとつなぐ方法を考え続けていきたいと伝えて下さいました。



ペルーにおける日本型体育教師教育の普及と展開 ～授業研究プログラムの国際共同開発を通して～

広島大学大学院教育学研究科 教授 齊藤一彦様

「ペルーへ赴き現地の体育関係者へのヒアリングで、学校体育は競技力を高めるための基礎と捉えられがちであることや、そのためには体育施設の未整備が課題であると考えられていることが明らかになった。しかし、体育施設を新たに充実させる支援ではなく、今ある環境の中で体育教師の能力を高めることが可能である“授業研究”[※] について紹介する支援を開始した」と活動当初についてお話し下さいました。そして、「ペルーの体育関係者の招へいでは、18 年は授業研究の実際の様子を紹介し、19 年は授業研究のマネージングについて紹介したこと」や、その後、「ペルー初の体育科教育学会が開催され、日本式の授業研究が全国展開されたこと」など、これまでの活動についてご説明いただきました。

活動の成果として、「教育省、大学、地域の教育行政官などの複数組織を取り込み、プロジェクトを通してお互いに時間や意見を共有することでネットワークが構築された」「体育の授業研究は動きが目に見え、ことばが通じなくてもお互いに状況が分かりやすいので、他教科に比べて導入しやすい」ことなどをご説明いただきました。最後に、「日本型の授業研究を、ペルーの成功事例をもとに中南米諸国にも波及させ、授業研究の国際化と多様化が促進されると良い。また、授業研究の海外展開モデルの構築となるように本プロジェクトを続けていくことが国内外のレガシーとして残るものになると考えている」と今後の展望についてもお話し下さいました。

[※] “授業研究”とは、日本の教育現場で行われている教師同士がお互いの授業を見学し、その授業に対して振り返りを行いながらよりよい授業を目指していく教師研修の一環。



南スーダン『スポーツを通じた平和構築』がもたらした変化

独立行政法人国際協力機構 (JICA) アフリカ部主任調査役 山中祥史様

「スポーツの持つ力は非常に大きい」と山中主任調査役は強く発言されました。SFT が創造したレガシーについては“平和促進のレガシー”を挙げて下さいました。

アフリカ・南スーダンにおいて、民族融和をスポーツでつなげる活動をされていた山中主任調査役。南スーダンは、1956 年から続く紛争に加え、2011 年の独立後も内紛が絶えず、いまだ他民族に対し恐怖心や猜疑心を抱きながら生活していると現状を伝えて下さいました。

2016 年に実施した全国スポーツ大会は“皆同じ南スーダン国民”という価値観の変化を与えるきっかけになれば良いという目的の元、開催されました。

同じフィールドの中でフェアプレイをすることで「武器を持って戦うのではなく、他者と理解し合えるこの状況こそが平和なのだ」と実感できた参加者も多くいたようです。「大会に参加した少年たちが、全国スポーツ大会を通して感じた平和の心を持ち帰り、平和で安定した南スーダンを担う青年に育っていけるよう、活動を続けていきたい」とレガシーをつなげていく想いを発表して下さいました。

また、「これだけ様々な分野の方に向けて発信する機会はないので、とても貴重な経験でした。スポーツが生み出す交流の力は大きく、その交流から生み出されるものをきちんと後押しでき、スポーツの価値とは何かを日本から世界に発信できる場が今後もあれば嬉しく思います。」とコメント頂きました。

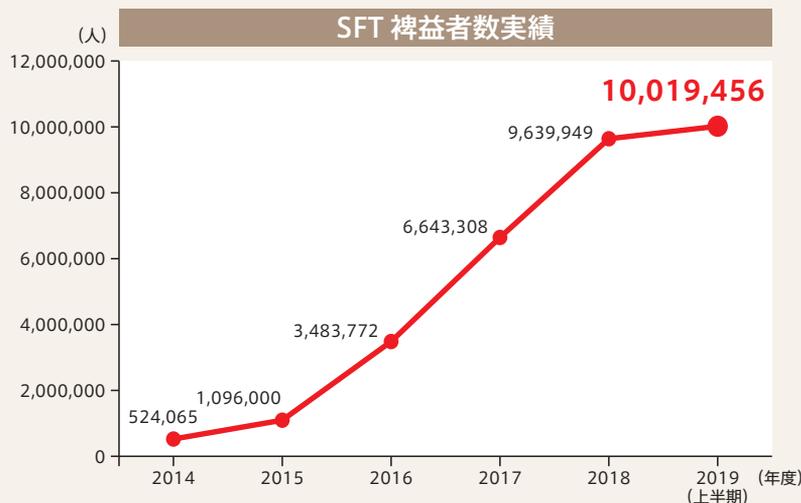


スポーツを通じた国際貢献事業
「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラム

100カ国以上、1000万人の目標を達成

2019年9月末時点(2014年1月～2019年9月累計) スポーツ・フォー・トゥモロー活動実績

「スポーツ・フォー・トゥモロー (SFT) プログラム」の、2019年9月末まで(2014年1月～2019年9月)の実績数が目標としていました100カ国以上、1000万人以上の目標数を予定よりも1年早く達成いたしました!!
会員団体のみなさんの地道な努力が実を結んで、こうして目標を達成することができました。ありがとうございました!!
目標は達成されましたが、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会まで、そして以降も益々スポーツ・フォー・トゥモローの活動を活性化させていきます。
会員団体の皆様には引き続き、ご協力頂けますよう宜しくお願い致します。



■ 2019年9月末時点「スポーツ・フォー・トゥモロー」実績・会員数状況(カッコ内は2019年3月末実績)

- ・裨益者数 : 10,019,456人(9,639,949人)
- ・実施国・地域数 : 202カ国・地域
- ・実施件数 : 5,563件(5,200件)
- ・会員数 : 運営委員会14団体+一般会員425団体=439団体(426団体)

安倍総理 コメント

2013年9月、日本は、東京大会開催が決定されたIOC総会において、「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムの提供を世界の皆様にお約束しました。

あれから6年。

オールジャパンで取り組むことで、このたび、スポーツの喜びを世界100カ国1,000万人の皆様にお届けするという目標を、予定よりも1年早く達成することが出来ました。

本プログラムでは、スポーツを通じた様々な交流・スポーツ促進の支援・指導者派遣・器材供与・施設整備など、世界各国の政府や競技団体からの様々な要望に対し、迅速かつきめ細やかに対応することで、関係発展に貢献してまいりました。

また、その結果として、国際スポーツ界における日本のプレゼンスも高まってきています。

特に、東京大会で初めてパラリンピック大会出場を目指す国々には、日本からコーチを派遣するとともに、日本でトレーニングキャン

プを開催するなど地道に選手・コーチの育成支援を行った結果、ブータンやグレナダのように、パラリンピック東京大会の出場条件をクリアできた国も生まれつつあります。

初出場となる国を代表する選手達が、東京大会で躍動し、世界中に喜びと感動を与える。

その光景を想像するだけでも、今から胸躍る思いであります。

世界中が日本に注目するオリンピック・パラリンピックイヤーを来年に控え、スポーツの力を信じ、世界中にスポーツの喜びを届けている方々が、我が国に数多く存在していることを、私は大いに誇りに感じています。

最後になりますが、本プログラムに賛同し、様々な形で支援を実施していただいた関係機関及び関係者の方々に対し、心より感謝申し上げますとともに、スポーツの素晴らしさが世界中に広がるよう引き続き御尽力の程よろしくお願い申し上げます。

内閣総理大臣 安倍晋三

Information

SFTC事務局からのお知らせ

■「第3回SFTC地域分科会in関西」延期について

3月17日に予定しておりました、「第3回SFTC地域分科会in関西」ですが、新型コロナウイルスの感染者の拡大、並びに政府の感染拡大防止指針により延期することとしました。

開催日程については決まり次第改めてご連絡致します。

■SFTC会員団体向けメーリングリスト、SNSをご活用ください。

SFTC事務局では、SFTC認定事業などに関する情報発信、会員間の連携促進を目的にメーリングリストを運用しています。さらにFacebook等のSNSやSFTホームページでも随時情報を発信しています。

Facebook <https://www.facebook.com/sport4tomorrow/>



Twitter <https://twitter.com/sport4tomorrow>



■認定事業終了における報告書ご提出のお願い

認定事業終了後、SFTC事務局まで報告書の提出をお願いいたします。報告書のフォーマットはSFTホームページよりダウンロードしていただくか、会員専用サイト (<https://www.sport4tomorrow-db.jpnsport.go.jp/>) から直接提出いただけます。

■HPのドメイン名変更

2020年3月末日よりスポーツ・フォー・トゥモローのホームページURLが変更されます。つきましては、誠に恐れ入りますが、「お気に入り」「ブックマーク」等にご登録いただいているお客様は、新しいURLアドレス (<https://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp>) に、ご変更くださいますようお願いいたします。

変更前URL <http://www.sport4tomorrow.jp>



変更後URL <http://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp>

SPORT FOR TOMORROWホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。 <http://www.sport4tomorrow.jpnsport.go.jp>

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。

発行日：2020年3月16日



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局
〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35
独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部内
TEL: 03-6804-2776 FAX: 03-3403-1570 Mail: sft.info@jpnsport.go.jp